



Mr. 池崎の

ブラジルから

Boa tarde!

(ポア タールジ! : こんにちは!)

第1回目 6月11日(金)~6月18日(金)までのレポート

* 第1回目ですが、いきなりレポートから始まっています。

6月11日(金) CEE(評議会・日本の教育委員会)での日本教育の説明と質問

9:00 出勤。9時半に CEE（この機関は、日本の教育委員会に相当し、教育行政に関わる様々なことを審議決定する機関です。立場としては、最高権限のある機関といえる）へ出発するまで、準備・打ち合わせをした。

10:00 CEE へ。しばらく受付で待った後、会場へ。それまで、小中の部会を行っていたようですが、私たちの入場とともに高校や大学関係者も入り、総会となる。

自己紹介後、私の方から、まず、パワーポイントを使い、日本の教育制度・日本の学校での日課・学校での学習内容・年間の行事などについて説明した（これはこちらに来てから、持っていった資料を基に簡単に作成した）。その後、日本からもってきた「ようこそ日本の学校へ」というビデオ（豊橋市外国人児童生徒指導検討委員会作成、約12分）を放映し、日本教育の理解を求めた。



説明中、どの委員も大変真剣に説明を聞いたり、ビデオを視聴したりしていた。説明後、質問を受け付けたが、大変多くの質問が寄せられ、会長が終了を告げ中断するのが難しいくらいであった。寄せられた質問の主なものは、次のようなものである。

- ・ 日本の教育制度はしっかり確立されているようだが、途中で道を変えることができるのか？
- ・ 先生方がやる気を出せるようなプログラムとしては、どのようなプログラムがあるのか？
- ・ 校長には、どのようなシステムでなっていくのか？
- ・ 学校でかかる経費、給食費について
- ・ 先生方の休日・給料・定年について

この機関では、Parana 州全体の教育について、1ヶ月に一度、1週間続けて議論するそうで、委員も、州内全土から、大学関係者・高等学校関係者・小中学校関係者など、できる限り幅広い委員が20名近く集まっているようである。それだけに、教育改革への思いは強く、取り入れることのできる部分がないか探っているようであった。

最後に、紹介したパワーポイント、ビデオ、そしてパワーポイント作成の基礎資料「豊橋の学校案内」のデータがほしいという要望があったので、データをお渡しすることにした。

日本の教育についてブラジルの人たちに知ってもらい、教育改革の手助けになればということが目的の一つであった本事業にとって、今日の CEE への説明は大変有意義な機会であり、大成功であった。

6月13日(日)日伯文化援護協会を訪問

今日は、クリチバにある日伯文化援護協会（日系クラブ）が歌謡大会を行っているというので、そこへ連れて行ってもらいました。車で20分ぐらい走ったところ（クリチバ中心部からはちょっと離れている）に日系クラブがあり、そこで一日を過ごさせてもらいました。

まずは、歌謡大会ですが、年配の方からちびっ子まで、年代順にプログラムが組まれ、全部でなんと119組の出演者がプログラムには書かれていました。司会ももちろん日本語。一日がかりで行われるそうです。大人も子供も本当に上手でプロ級でした。びっくりしていると、今日はクリチバ市内だけだけど、7月にはブラジル全土から集まる歌謡大会があり、なんと700組の出演者が出る大会がクリチバで行われると聞き、さらにびっくりでした。



歌謡大会の途中で抜け出し、このクラブ内で行われていることや施設を見て回りました。ここでは、日本語が通じる人が多く、一人でぶらぶらしても大丈夫でした。

歌謡大会の隣の部屋では、お年寄りたちが将棋を指していました。子供の頃にやったことがあったので、しばらく見ていると、一緒にやろうと誘ってくださり、1局打ってきました。番匠さんという82歳の方とやったのですが、強い強い。なんでもこの中で一番強い方だそうで先月の名人戦のチャンピオンだと後から聞きました。自分たちで、名人戦とか3段戦とかリーグを決めて、毎月第2・4日曜日に楽しんでいるそうです。でも、一日将棋をす



るとかなり頭が疲れると思いますが、一日中やっているそうです。それ以外にもいろんなことが行われ、この写真には、「よきこいソーラン」の練習風景、テニス場、ゲートボール場を載せました。その他には、グラウンドで、野球とソフトボール。サッカー場ではサッカー。プール（プールはこれまで、屋根だけのプールだったのですが、今工事をし、室内プールに改築中で温水にし、一年中入れるようにするそうです）。そして、子供が遊べる公園（公園には、日本にあるブランコ・シーソー・ジャングルジムなどがありました）。また、太鼓のクラブもあるそうで、今日は練習ではなく、太鼓の皮の張り替えをメンバーで行っていました。太鼓大会なるものがあるそうで、日曜日ごとに集まり練習しているそうです。

単に、日系の方が集まりいろいろな活動をするだけでなく、お互いに交流する中で、日本の文化や言葉を継承していこうとしているとのことでした。会費4000円/月。後はイベントの収益金で経営。



6月16日(水)SUED(教育部門最高責任者)訪問と ASFOPE(研修部門)訪問

9:30 に SUED (教育部門の最高責任者、教育長にお会いしていたときに同席されていました) のアライデさんと会う予定でしたが、今日も迎えが来なかったり、アライデさんも会議が長引いたり、訪問は 10:15 となりました。ブラジル時間というのもあるし、本当に忙しい状況のようです。



アライデさんへの訪問では、主に、アライデさんからの質問に私が答えるという状況でした。アライデさん自身は、さすがに教育部門の最高責任者として、今のブラジルが抱えている教育の問題や実状（教育についてはまだ後進国であること）を踏まえ、日本の教育や制度について聞く中で少しでも参考にできるところを取り入れたいという思いが伝わってきました。主な内容を次に書きます。

- ・ 現政権以前は「私立」を大切に、現政権は「公立」を大切にしている。公立の多い、日本の教育は大変参考になる。
- ・ 教員の質の確保については、大学での育成課程の充実を検討し、また、教員になってからの研修制度の充実を行っている。ただ、教員の給料が安いのが問題。「先生になることはすばらしいこと」という意識を作らねばならないと考えている。
- ・ 国で決めたことが各学校まで浸透するシステムについて
- ・ 学校への登下校。日本の通学団登校のメリットについて
- ・ 教師への研修と評価。どの教師にどのような研修を行えばよいか？そして評価は？
- ・ 校長への道。資質。（ブラジルでは選挙制。取り入れたいが歴史的なものもあり難しい）
- ・ 学習内容と指導法を決める機関について



ブラジルでは、国で決めたことを州・市・学校に同じように伝え広めていくことが難しく、今、国・州・市の関わりを検討し始めているとのことでした。

会談後、アライデさんが Parana 州の文化局から頂いた「Parana 州の教育建造物の建築」「博物館に展示されている展示品」「Parana 州の文化遺産」という本を私へのプレゼントとしてくださった。

今日の午後は、ASFOPE の方と会う予定でしたが、担当の方の体調が良くなく急きょキャンセルとなり別日に設定されることになりました。残念です。

話は変わりますが、アライデさんを待っている間に、担当のクリスチアーナさんに昨日の勤務について聞いたところ、全員 2 時で仕事を終え帰宅したとのことでした。その勤務は休暇なのかと聞いたところ、昨日は 1 時間早く出勤し、昼の休憩を取らずに勤務し、残った時間は別日に勤務するとのこと、基本的には振替システムのようでした。

6月17日(木)PDE(教育発達プログラム、1年間の教育研修)訪問

今、Parana 州が一番自信を持って紹介できるプログラム。それが、今日、訪問した PDE だと思います。

これは、毎年 2400 人の教師を対象に、1 年間現場を離れて研修を行わせるシステムです。該当教師は、大学と連携し、大学教師の指導を受け自分の興味ある分野・授業について研究をし、1 年経過後には論文を完成させるというものです。

広大な Parana 州全体でこのシステムを完成させるために、各地の大学(15)と連携し、約 1000 人の大学教師が関わっています。また、コンピュータシステムを開発し、そのシステム上で、大学・該当教員・州の事務局が情報共有しながら事業を推進していました。さらに、そのシステムのサイトを見れば、該当教師がどの大学の教師の元でどのような研究をしているか、その該当教師の研究内容など、すべてをだれもが閲覧できるようにしてありました。一例として見せていただいた該当教師の論文(算数)は、身近なものを授業で活用し、小学校 5 年生の立体の授業を構成すると良いという内容の論文でした。自分が昔、同様の論文を書いたことがあり、親近感を覚えました。ただ、日本の場合、現場の先生が日々の授業で実践し、研究し論文を仕上げていくのですが、ここでは、1 年間現場を離れて没頭できるということが大きな違いです。日本で似たシステムを考えると、県のセンターへ長期研修として 1 ヶ月間、研修に行き研究しますが、それを 1 年間やっているようなものです。

この事業のもう一つの素晴らしいことは、該当教師が、2 年目に、20 人の興味ある先生にインターネットを通じて、自分の実践を紹介したり、教育についての相談にのったりし、該当教師を核にしながら、より幅広い人に成果を広めようとしていることです。

この事業実施にともない、大学教師への謝礼、大学への謝礼(大学使用料・施設設備費)、該当教師が遠隔地の大学へ研修に行く時の宿泊費・食費・交通費、システム開発費などを含め、膨大な費用をかけていました。ブラジルの教育を発展させるためには、良い教師が必要であるという考えの基に、この事業に取り組んでおり、教師の質が低いといわれている当地にとっては、大切な事業だと感じましたし、より多くの教師が研修対象になると良いと思いました。

ブラジルには、もともと、教師同士が研修を深め力量を向上するという習慣がないようで、今回のことは画期的で、この取り組みの

進展で、先生方の資質向上をねらっているそうです。

右の 3 枚の写真は、英語の該当教師の自作教材で、大変立派な説明書も作成してありました。左の写真は、説明をしてくださった方々で、中心の女性が、このキャップのシモニ先生です。どの方も、情熱的に語ってくださいました。



6月18日(金)CIAC(カリキュラム補完教育活動部門)訪問

今日訪問した部門は、基礎カリキュラム以外の活動を管理・支援するところです。つまり、午前中に教科カリキュラムの授業を行い、午後にそれ以外の活動を行う学校への午後の部分の管理・支援です。

実際に、教科カリキュラム以外の活動としてどのような活動を学校が行うかという、A学校では、マーチングバンド、フットサル、チェス、科学実験講座、国語の補習授業の5種類を、全生徒に全内容、履修させているそうです。日本でいえば、小学校のクラブ、中学校の選択授業を全部必修にし、日本の部活動的に行っている状態といえます。この学校では、7・8年生の生徒が、午前中に教科授業を受け、昼食（無料で提供される）後、午後の活動としてこれらのことを行うシステムです。



このようなことを行っている訳ですが、現在、ブラジルでは、ほとんどが2部制を採っており、午前か午後しか授業を受けません。ところが、最近の教育改革により、一日制（一部制）を採ろうとしています。しかし、一日制を採ることで、いろいろな問題が生じることが予想されたり、実際に、一日制にしたときに生じたりする問題を発見するために、試験的に一日制を行っているのです。実際、一日制にすることで、昼食を出すという画期的なことを行わなければなりません。また、現在、たとえばある教室を午前小学生が使用し、午後は中学生が使用したりしており、一日制にすることで、教室不足の状況が生まれてきます。また、教員数も、足りなくなります。このように、

...
08:00	08:15	08:30	08:45	09:00	09:15	09:30
09:30	09:45	10:00	10:15	10:30	10:45	11:00
11:00	11:15	11:30	11:45	12:00	12:15	12:30
12:30	12:45	13:00	13:15	13:30	13:45	14:00
14:00	14:15	14:30	14:45	15:00	15:15	15:30
15:30	15:45	16:00	16:15	16:30	16:45	17:00
17:00	17:15	17:30	17:45	18:00	18:15	18:30
18:30	18:45	19:00	19:15	19:30	19:45	20:00

実際に一日制に移行するに当たっての問題点を把握する準備段階としてクラブ活動的な授業を行っているそうです。教育改革を進めるブラジルの苦悩を感じることができました。

CIAC の方の説明後、日本のクラブ活動、選択授業、そして部活動について説明をしました。大変興味深そうに説明を聞いてくださいました。また、将来的には、一日制を採りたいという思いがあるので、日本の日課についても大変興味があり、日本の日課表を見せながら、子どもと教師の一日の生活について説明しました。

教育の一部制については、問題を抱えながらブラジルの習慣を大切に、取り組んでいる様子を伺うことができました。ただ、途中でブラジルの文科省から電話があり、Parana州で今年（2月）から45校が実施しているこの試験的な制度を、2学期（8月）から222校分実施できる予算が付く予定だということでした。何という急激な話だと思います。ブラジル、特にParana州は、今、教育改革を進めています、教育局で勤めている方の熱い思いと、実施校を45校から222校に大幅に拡大する予算的な増加があれば、ブラジルの教育改革は急ピッチで進むであろうと恐ろしいものを感じました。